

住宅復興状況把握のための航空撮影について

平成29年 4月13日
中部総合事務所生活環境局

- 中部地震による被害の代表的な例である屋根のブルーシートの状況を把握するため県防災ヘリで空撮し、復興状況を市町と協力し確認します。
- 復興状況の確認は撮影した写真に基づきブルーシートの住居を判別、あわせて地上からも目視により確認し、住宅地図上に転記することにより、復興状況の進捗（可視化、数値化）を把握します。
- 地震発生後の平成28年11月2日の空撮写真を基準としてブルーシートの減少状況を定点観測します。

1 復興状況把握の手順

- (1) 撮影場所の選定（県と市町で協議）
- (2) 空撮（県消防防災センター）
- (3) 分析（市町）
空撮写真及び地上からの目視により被害住居を住宅地図へ転記
- (4) 集計とりまとめ（中部総合事務所生活環境局）

2 撮影予定日

平成28年11月2日(水)の震災直後、防災ヘリから空撮したものを基準として、概ね2月毎に空撮し、10月下旬（概ね地震後1年間）を目途とする。

・撮影日 平成29年4月上旬、5月中旬、8月上旬、10月下旬を予定

※取りまとめは空撮後、概ね2週間程度必要

3 復興状況確認イメージ

